P新人賞2021はAPINUNに決定!
久々に観客の前で授賞の喜びも――

P新人賞2021最終選考上演会が損保ジャパン人形劇場ひまわりホールで開催され、終演後の公開選考会で3作品のうち、APINUN『牛』(作・演出・美術・出演:山村佑理、音楽・助演出:あづみびあの／東京都)がP新人賞を受賞、トランク機械シアター『きらわれドロロンと、魔法の鏡』(作・演出:立川佳吾／北海道)が観客賞を受賞しました。P新人賞には賞金20万円と来年度の新作公演の招待、観客賞には「どえりゃー名古屋めしセット」が贈呈されました。最終選考委員は小島祐未子、玉木暢子、智春、水谷イズル、コーディネーターは木村繁でした。

APINUN『牛』について、ジャグリングのボールの重力が感じられ、操る身体との関係性が見えた(玉木)、牛を表現する26個のボールは三千世界や百万遍などの仏教哲学につながるものを感じさせた。より哲学的な考察を深めてほしい(小島)、西洋ジャグリングの既成概念を崩し東洋的な世界を展開してくれた(水谷)、操作技術がより高くなるとモノが人間を操作しているように見えてくる。モノばかりが見えて身体が消える瞬間を期待したい(智春)という高い評価がありました。

トランク機械シアター『きらわれドロロンと、魔法の鏡』については、悪意の拡散=SNS炎上をテーマにしているのだろう。そのテーマを、ワークショップで子どもたちのデザインした人形を使用するなど、子どもたちに向けて楽しく見せる努力に共感した(水谷)、人形の造形の特徴をもっと捉えて、その人形固有の動きをより追及して欲しい、ドロロンの影絵の形象は影という特性を生かしたもっとえたいの知れない造形にしてほしい(智春)、ドロロンという気持ちの悪い悪意をテーマにしたり、子ども人形劇らしからぬ終わり方に共感した。人形と人間の関係性や生演奏と録音した音楽の関係性も含め、今後どう表現するのか集団の美学を確立して欲しい(小島)。録音された台詞を使って上演しているが、私はそういう人形劇の様式も可能性があり否定しない。ただ今回は台詞が速すぎて演技がついていけない感じがした(玉木)という評価がありました。

長谷川唯(公益財団法人すぎのこ芸術文化振興会／埼玉県)『茶壺道中』については、大きな紙芝居と映像VS語りという形式は、それぞれのバランスが不自然で演出の計算が読み取れない。映像をあらかじめ撮影するのではなく、カメラマンが舞台に登場して語り手も含め撮影する方がライブ感が出るだろう(小島)。紙芝居と語りの組み合わせで、観客は絵をあちこち見て想像したいのに、さらに別の映像が現れて想像の邪魔をしている。もう少し絵から石が飛び出すとか観客を刺激するライブ感が欲しい。活動弁士のような語りのテクニックも研究して欲しい(智春)、日本には熊野曼荼羅のような絵解きという伝統的な語り物があるが、絵をただの説明の道具にするのではなく、絵をオブジェとしてもっと観客との関係を作り出してほしい。舞台に茶壺を作って置くのはどうか、立体的になると思う(水谷)などの評価が寄せられました。

今回もジャグリングの世界から、人形劇の世界から、絵語りの世界からと、異なった3作品が最終選考会に登場し、人形劇とオブジェを遣ったパフォーマンスの可能性を照らし出してくれました。今後の活躍を見守りたいと思います。

P新人賞実行委員長・演出家　木村繁

2年ぶりに観客を迎えて開催

受賞の喜びを語る山村佑理

公開選考会の様子

長谷川唯(公益財団法人すぎのこ芸術文化振興会所属／埼玉県)
『茶壺道中』

APINUN(山村佑理×あづみびあの／東京都)
『牛』

トランク機械シアター(北海道)
『きらわれドロロンと、魔法の鏡』

人形劇の先進国チェコから傑作が上陸

チェコ・アルファ劇場による『快傑ゾロ』は、現代チェコ人形劇の巨匠、トマーシュ・ドヴォジャークの最新演出作。ジョンストン・マッカレーの小説『快傑ゾロ』、そして1920年のダグラス・フェアバンクス主演サイレント映画『奇傑ゾロ』を着想源に作り出した、チェコ人形劇ならではのユーモアと躍動感あふれる傑作です。

ペトル・マターセクと並んでチェコを代表する人形美術家イヴァン・ネスヴェダがこの舞台のために製作した、伝統的な木彫りのマリオネット17体を含む計80体もの人形群と、ゾロのマスクを模した特殊舞台装置も必見です。アルファ劇場のすばらしい喜劇俳優たちが扮するエル・マリアッチ(メキシコ民族音楽団)の華麗で陽気な生演奏が、全編を通じて舞台を盛り上げます。小さな子どもから大人まで、みんなで笑って楽しめる舞台です。

Story

ある日ある時、メキシコのとある町…人々は重い税金に苦しんでいました。しかし、欲深い町長は、金貨の風呂に浸かってご満悦。
乱暴に税金を取り立てる軍隊長は美しい娘イザベラにぞっこんですが、イザベラの方はまっぴらごめん。心優しくシャイな若者、ユニオーロもイザベラを愛していますが、ちょっと優しすぎて頼りない。
そこへマスク姿の謎のヒーロー、ゾロが颯爽と現れた!町の人々を次々と救っていくその雄姿にイザベラも夢中になります。
一体ゾロの正体は? そのマスクの下に隠された真実とは…。

Profile

アルファ劇場(ピルゼン／チェコ共和国)
1966年にピルゼンで設立されたアルファ劇場は、チェコ人形劇界を代表する人形劇団。トマーシュ・ドヴォジャークやイヴァン・ネスヴェダなどチェコ現代人形劇界を代表する演出家・美術家を擁し、国際的に最も著名な人形劇団の一つ。糸操り・手使いなどのチェコにおける伝統的美術や演出法に根ざしつつ、オルタナティブな演劇手法も取り入れて常にチェコ人形劇の新たな可能性を切り拓いてきた。幼稚園児～ヤングアダルト～大人まで幅広い観客を対象とした数多くのレパートリーを有し、国内外の著名な人形劇フェスティバル等で受賞多数。代表作『三銃士』は計27以上の賞を受賞し、ヨーロッパ、アメリカ、カナダ、中東、日本等で巡回公演が行われた。これまで上演のために訪れた国は35カ国を超える。二年に一度開催されるチェコ最大の人形劇・オルタナティブシアター・フェスティバル「Skupova Pilzen」をピルゼン市と共に開催している。

チェコ・アルファ劇場公演
『快傑ゾロ/Pozor! Zorro』
2022年**8月16日(火)** 19:00開演
17日(水) 14:00開演
愛知県芸術劇場小ホール
前売3,000円　当日3,500円
※センター会員2,700円(事前申込に限る)
共催／愛知県芸術劇場

愛知人形劇センターpresents
バペット×フィジカル×アート
ひまわりホールアートラボ
会場：損保ジャパン人形劇場ひまわりホール
定員：15名程度
対象：舞台表現で今後のスキルアップを目指す方
料　金

	前・後期通し	前　期	後　期
一　般	60,000円	25,000円	50,000円
U25(25歳以下)	40,000円	15,000円	25,000円

応募締切：2022年5月22日(日)23:59
応募方法：メールまたは応募フォームより必要事項を記入して応募。
※応募条件などの詳細は、愛知人形劇センター公式サイト参照。

応募フォームはコチラ

お問合せ
特定非営利活動法人
愛知人形劇センター
TEL：052-212-7229
(祝日を除く月～金・9～18時)
MAIL：mail@aichi-puppet.net
https://aichi-puppet.net/workshop2022/

舞台人のためのラボ 6月開講&研究生募集中!

SAI

「新しい生活様式」の名のもと、舞台芸術も変容を余儀なくされている中、観客にも表現者にも「表現する意味と意義」を探る欲求がますます増えています。愛知人形劇センターと人形劇場ひまわりホールでは、30年を越える人形劇創造へのアプローチを踏まえ、モノとカラダを思考してパフォーミングアーツの新たな水平を探る、舞台人のためのラボを開設します。

舞台芸術の第一線で活躍する講師陣と一年間格闘し、来年3月の制作発表を目指します。あなたも、モノとヒトガタ、カラダ、アートが交差する目くるめく表現空間で、新しい舞台表現にチャレンジしてみませんか。講師、スタッフ一同、心よりのご参加をお待ちしています!

講師のご紹介

フィジカル
LONTO
道化師。国内外で道化、マイムを学び言葉のないノンバーバルの舞台で全国を巡演。交響楽団や現代舞踊、日舞等とも共演多数。劇団やパフォーマー指導、文化庁子どもの育成事業、企業研修、保育士、大学等で講師も務める。

バペット
ゆみだてさとこ
故丹下進氏の人形劇団に入団し5年間全国を巡演した後、2008年に「ゆめみトランク」を旗揚げ。日本画家、平松絵美と協働し、ゆみだてが演出した作品『やぎのおはなし』で愛知人形劇センターP新人賞2011受賞。

アート
ヨコヤマ茂未
絵画を中心に、書籍装画、アートデレクション他、ジャンルやカテゴリーに拘らない寓話的世界観で活動の場を拡げている。幻冬舎PONTOON装丁コンペティション 2010大賞受賞、2022第5回ナゴヤテラシデザイン大賞受賞。

テキスト
ニノキノコスター
演出家・劇作家。小劇場の俳優が落語をやる会「小名古屋落語会」席亭。日本劇作家協会東海支部員。他ジャンルを取り入れた演劇作品を数多く手掛ける。代表作にP新人賞2017受賞「MANGAMAN」、ひまわりホール30周年記念制作『犀』ほか。

アンサンブル
大野正雄
1995年、人形劇団むすび座に入団。大型人形劇『石の馬』に出演後、北京で一年間、京劇の身体表現を学ぶ。帰国後、『西遊記』『おまえうまそうだな』などに出演。演出作品『ピノキオ』は厚生労働省児童福祉文化賞を受賞。